

2014年京都造形芸術大学新入生保護者の皆さまへ

2014年4月3日

尾池和夫

2014年度、新入生のご家族の皆さま、あらためてご子弟のご入学、まことにおめでとうございます。言うまでもなく大学にあって、最も大切なのは学生です。瓜生山学園の役員、京都造形芸術大学の教職員は、そのことをしっかりと認識しております。学習環境を整え、新入生をお迎えし、皆さんの学園生活を支援していきます。

新入生の皆さんが暮らす京都は、1300年の歴史を持ちながら、今も発展を続けている都市です。このような大都市は、世界的に見ても珍しいと言えます。京都市は京都盆地にあり、その中に40ほどの大学があり、大きな特徴は、その大学の間を学生さんたちが自転車で往き来できる距離のあるということです。

京都には長い間、都が置かれていました。しかも、諸外国の都と比べて大きなちがいは、京の都には城壁がないということです。それはなぜかということ、日本の国の文化でもあり、地形の特徴でもあり、歴史でもあります。古都京都の文化財は、京都市、宇治市、滋賀県大津市にある寺社などから構成されるユネスコの世界遺産（文化遺産）として、1994年、日本では登録された5件目でした。

そのような京都盆地に、京都造形芸術大学は位置しています。そのことは、新入生も皆さんに具体的に役立つ、さまざまな影響をもたらせます。京都には、日本の各地から、また世界の各地から、たくさんの人びとがやってきます。京都盆地は、第四紀後期の活断層運動で形成された盆地で、発達した分厚い堆積層の中に豊富な地下水を含んでおり、世界的にも稀なこの良質の地下水が、京都の豊かな文化を生み出したという仕組みがあるからです。しかし、一方、この盆地を形成した活断層は、ときに大地震を起こします。大学にとっては、学生さんたちに安全な学習環境を確保することが何より大切です。

この、京都造形芸術大学の本部があるキャンパスは、花折断層の南部にあります。断層の上盤に設置されており、その隆起運動による景観を十分に活用しています。この花折断層の活動履歴はよく調べられており、最新の活動は、今から2800年前から1400年前の間、もう一つ前の活動は、今から7900年前から7000年前の間であったということがわかっています。これらのことから、次の地震が起こるとすれば、その規模はマグニチュード7.2の地震であり、今から30年間の発生確率は最大0.6%と計算されています。これは地震がしばらく起こらないと解釈される確率でもあります。もし万一すぐに地震が起きた場合でも、規模が小さくて済むと考えることができます。いずれにしても、学生たちが安全な環境で学習できるよう、学舎の耐震化を進めることが重要であると

考えています。

ご家族の皆さまには、大学でのこのような施設整備に対応して、同時に、学園外での生活の場の安全ということ意識して確保しておいていただきたいと思います。寝ているところに物が落ちてこないようにしておくということです。通学の経路をよく点検して、信号無視で無理な横断をする場所がないか、大地震や洪水のとき危険な場所が通学路にないか、夜遅く通る道に暗い場所はないか、交番はどこにあるのか、というような目配りを忘れないようにしていただきたいと思います。その上で、ご子弟の自立を支援し、静かに社会人として育っていく過程を見守っていただきたく思います。

学生自身の防災意識を養うことも重要です。そのためには正確な知識が必要です。昨年一度実施しましたが、課外の学習として、花折断層の現地見学会を実施しました。今年もぜひやってみたいと思っています。

これからの学園生活の中で、大いにそれを楽しんでいただきたいと思うと同時に、学生の皆さんが社会性を身につけながら、卒業して社会人として活躍できる条件を整えていくというのが、本学の重要な目標でもあります。保護者の皆さまと大学が情報をしっかりと共有するためにも、この蒼山会の活動に積極的に参加していただいて、皆さま方と一緒にさまざまの課題を考えていきたいと思っています。

一般的な言い方ではありますが、当然のことながら、さまざまの場面での会話が大切です。ご家族としては親と子の間で、学生一人ひとりと教職員と間で、学生と学生との間で、常に会話をしていることが大切です。その会話の上で一番大事なことは、ご家族にとっては学生さんの話を聞くということです。教職員にとっても学生の言葉を聞くということが重要です。

保護者と保護者の会話も必要です。保護者と教職員の会話も大切です。そのための仕組みをいろいろの形で用意します。大いに参加していただいて、親睦を深めながら、情報を交換してくださるようお願いいたします。

すべては、これから学位取得までがんばって学習し、制作する学生の一人ひとりのためにあります。今日から、学位授与式の日まで、保護者の方たちと大学とのしっかりとした連携のもとに、学生が育つ環境を守っていききたいと思っています。

また、機会を見て、たびたびご家族とお目にかかって話す機会を作るつもりです。昨年度は、例えば、蒼山会の役員階で意見交換したり、卒業展の見学会でお話ししたり、私もご家族の皆さまとお話しする機会がありました。今年も同じような企画があると思います。また、本学には、プロジェクトセンターがあって、1年に50件ほどのプロジェクトを実施し、皆さまの活動をしています。その中には、蒼山会の皆さまにもご参会いただける

ものがたくさんあります。それらを通して、学生さんたちの活躍をご覧いただくよう、よろしく申し上げます。

本学の活動に積極的なご意見を賜り、ご協力を賜りますよう、お願いして今日の入学式の日のご挨拶といたします。

あらためて、ご子弟のご入学を、心からお祝い申しあげ、同時に本日の蒼山会への、多くの方々のご出席に、心から感謝いたします。

ありがとうございました。